

研究発表

オスカー・ワイルドのアイデンティティーの一側面

—アイルランドとイギリスの狭間で—

薩摩竜郎

(東京工業大学専任講師)

ワイルドのアイリッシュ・アイデンティティーに特に注目する研究は、日本ではもちろんのこと、世界的に見ても従来あまり盛んになされてきたとは言い難かった。ところがここ数年の間にこの問題に注目する研究書が相次いで出たほか、Eagleton や Kiberd が著作の中で特にそういった観点からワイルドを論じたりもしている。アングロ=アイリッシュとしてのワイルドのアイデンティティーを巡るこれらの議論は、ワイルドの作品の中に繰り返し現れる「分裂」「多元化」といったテーマを検討する際に有効な視点を提供するものと考えられる。

伝記的に見てまず重要なのは、両親からの影響である。高名な医師であると同時にアイルランドの考古学・フォークロア研究者であった父と、熱烈な愛国詩人として知られていた母の間に育ったワイルドが、どんな形であるにせよ、アイリッシュ（特にアングロ=アイリッシュ）としてのアイデンティティーを強く自覚していなかったとは考えにくい。しかし実際には彼はアイリッシュとして発言することは少なかった。イギリスに渡ってからのワイルドは、意識してイングリッシュの振りをしたと思われることが多いのだが、そういった行動を取った最初の間とされるのがオックスフォード大学への進学である。

ワイルドは後に、「自分の人生の二大転機は父が自分をオックスフォードに送った時と社会が自分を監獄に送った時だった」と述懐するが、ダブリンからオックスフォードに移り住み、イギリス育ちのエリート達と接するようになった事は、おそらくワイルドがアイリッシュとしてのアイデンティティーを痛感する最初の間を与えたものと思われる。数々の伝記から明らかなのは、彼がそこで、言葉の訛りも含めて「イギリス人以上にイギリス人らしく」振る舞おうとしたことである。つまり、意識的に 'English Oxonian' としてのアイデンティティーを作る、その仮面をかぶるという作業をおこなったのである。ワイルドはあるがままのアイリッシュとしてのアイデンティティーに安住せずに、自らが何者であるか、つまり 'Who I am' を自ら規定するという作業をそこでおこなった事になるが、それは同時に、いろいろな形のアイデンティティーを意識的に作る事の必要性・可能性の自覚をもたらしたはずである。

こういったアイデンティティーの問題への関心・こだわりはワイルドの作品の至る所に現れているが、代表作 *The Importance of Being Earnest* も、アイデンティティーを規定しているのは何かという深刻な問題を徹底的にパロディ化した作品と見ることができる。主人公の John (Jack) Worthing は、自分の親が分からない、自分が何者かも分からない、つまり普通の意味での自己のアイデンティティーを失っているため、いわばそれを自ら作って生きていた。その上さらに Ernest という架空のアイデンティティーを作り出して 'double' の生活を送っていたが、それが嘘であると婚約者にばれたため、名前にこだわる婚約者との結婚がいったんは破綻しかけてしまう。ところが、隠されていた彼のアイデンティティーがひょんな事から突然明らかになる—“... would you kindly inform me who I am?” の答えが、実は本当に Ernest である事が判明したのである。

“Who I am” の深刻さと馬鹿馬鹿しさがこの場面の鍵だが、昔付けられた名前が分かって、現在の Jack に本質的な変化がある訳ではない。それでもその種のアイデンティティーによって、結婚できるかできないかといった重要な現実が決まってしまう。そういったアイデンティティーの持つ不確かさと理不尽な力は、ワイルドがオックスフォードで感じ始めた事だとも考えられる。オックスフォードのエリート社会に入っていくために、ワイルドは Ernest という名前こそ名乗らなかったが、アイリッシュというアイデンティティーを隠蔽し、イングリッシュという仮面を被ったのである。

ワイルドの人生・作品の両方には数多くの分裂が見られる。イングリッシュの仮面を被ったアイリッシュ、よき夫・父親の面を持つ同性愛の快楽主義者、世間から蔑まれる事の多かったダンディ、貴族的な社会主義者（無政府主義者）、弱者への優しい眼差しをもつ傲慢な強者——こういった実人生でのワイルドの様々な顔は、作品中にその投影を見いだすことも実に容易だ。そのようにいろいろな形で出てくるワイルドの分裂したアイデンティティーへの志向は、おそらくは最初に痛烈に自覚したアイリッシュ/イングリッシュの分裂を一種の原型としているのではないかと思われるのである。

